

和歌山病院も避難ビル指定

美浜町5件目の協定締結

美浜町と、独立行政 山病院(和歌山)は13日、法人国立病院機構和歌山災害時における緊急避難施設としての使用に



協定書を手にもつ南方院長(左)と森下町長

関する協定を締結した。

地域住民らの津波避難ビルとして、和歌山病院を指定するための協定。和歌山病院では、

昨年4月10日に大地震発生時の津波想定深より高い5以上に病室(2、4階)が設置され、5階には地域住民約1600人が避難できるスペースもある災害に強い新病棟が供用を開始している。新病棟の避難スペースへは外付け階段を利用すれば上ることができ、外付け階段は震度5弱以上で解錠さ

れる「感震ボックス」内の鍵を使って入れる。病院の門には避難ビルの標識も取り付け、住民らに周知する。津波避難ビル指定に伴う協定の締結は、和歌山の養護老人ホームときわ寮や御坊市のオークワロマンシティ御坊店等に続いて5件目。

この日、協定書締結式が役場であり、森下誠史町長、南方良章院長が出席。それぞれ協定書に調印した。両者を代表として森下町長は「安心、安全の町づくりをしており、本当は「これ以上、これ以上」にうれしく思う。これが、和歌山病院近隣の(和歌山地区の)住民、松洋中生徒の安心感も増したと思う」とあいさつした。